

令和 4 年度 宇都宮市立一条中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

豊かな心と健やかな体を持ち，自ら考え行動するなど，意欲を持って自主的・創造的に生きることができ，日本はもとより国際社会に貢献できる人間を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・自ら学び自ら考える生徒（知）
- ・認め合い協力する生徒（徳）
- ・明るくたくましい生徒（体）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「あたたかい学校・活力のある学校・地域と共に歩む学校」

生徒一人一人を目指す生徒像に近づけるためには，地域学校園の小中学校，家庭，地域が連携しながら，それぞれの力を発揮していくことが重要である。本校がその核としての役割を自覚し，関わる人々が誇りに思う学校となれるよう，目指す学校像（3つの柱）を掲げる。

- ・明るいあいさつにあふれ，互いに認め，励まし，称え合える，「あたたかい学校」
- ・地域社会や未来を見据え，子どもや教職員のよさが十分に活かされる，「活気のある学校」
- ・生徒や保護者，教職員が誇りに思い，地域に愛され信頼される，「地域と共に歩む学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）あたたかい学校

- ・心の教育，望ましい人間関係づくりを図る
- ・特別支援教育の視点を十分に生かす
- ・花と緑を大切にしたい潤いのある環境を整備する
- ・教職員の団結と健康管理に努める

（2）活力のある学校

- ・学級指導の充実に努める
- ・体力・気力の向上と健康教育を推進する
- ・学びやすい，生活しやすい環境を整備する
- ・職員が働き甲斐のある職場づくりに努める

（3）地域と共に歩む学校

- ・地域をフィールドにした学習活動を進める
- ・地域の人材，資源を活用した教育を推進する
- ・学校支援団体との連携強化に努める
- ・地域に根差した ESD を推進する

[一条中学校地域学校園教育ビジョン]

基本をしっかり身に付け，地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

Society5.0 の到来を見据え，ユネスコスクールとしての自覚と ESD（防災・平和・福祉等）の推進により，奉仕の精神と協力する態度，主体的に行動する力を育成できるよう，教育課程と指導体制を工夫する。

- （1）日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学習指導要領の関係法令，および県教育行政基本方針，市教育委員会管理運営規則，市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- （2）地域や学校の実態を踏まえ，生徒の心身の発達の段階や特性を十分考慮しながら，人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- （3）市の小中一貫教育，GIGA スクール，宇都宮学等の趣旨を生かした教育活動全般にわたるカリキュラムマネジメントを行い，適切な指導が図れるよう配慮して編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営 ～教育目標の達成を目指すチーム学校づくり～
- ・生徒や家庭、地域、関係期間等と学校教育目標や学校経営の理念を共有し、その達成に向かう集団づくりを進める。
 - 教職員が一丸となって学業指導にあたるとともに、業務の効率化と働き方改革を進める。
 - ・学校の公開や情報発信を積極的に行いながら、地域に愛され信頼される開かれた学校づくりを進める。
- (2) 学習指導 ～子どもが意欲的に取り組む授業、学びに向かう集団づくり～
- 主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。
 - ・習熟度学習、TT、ICT機器の利点を生かし、学ぶ意欲の向上を図る。
 - ・読書活動、新聞活用（NIE）を充実し、広い視野と思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ・ユネスコスクール、ESDの理念を生かした学習活動を推進する。
- (3) 児童生徒指導 ～ともに成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～
- 特別支援教育の視点を活かし、自己肯定感、自己有用感をはぐくむ教育相談に努める。
 - ・共に課題に立ち向かい、互いに認め、励まし、称え合うことで、自他共に成長できる集団づくりを推進する。
 - ・自ら考え、判断し、責任を持って実行できる自己指導能力の育成・向上を図る。
 - ・困難を克服し失敗から立ち上がる力（レジリエンス）の育成に努める。
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）～強い体、折れない心、健康的な生活習慣の育成～
- 基礎体力の向上と持久力を養うための活動を工夫改善する。
 - ・カリキュラムマネジメントにより、健康、食育、安全に関する指導の充実を図る。
 - ・感染症対策や防災教育を通して、危機に対応できる能力の育成を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す 生徒の 姿	A1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	単位時間における授業のねらいの明確化と、個に応じた指導をすることで、進んで学習に取り組めるよう工夫する。 多様な学び合いの場を設定することで、進んで学習に取り組めるよう工夫する。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・生徒の肯定的な回答が90%以上であり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・わかりやすい評価計画を提示し、生徒の学習意欲がさらに向上するよう工夫する。
	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答85%以上	主体的・対話的で深い学びにつながる道徳の授業の実践やそれを生活と結びつけることで、生徒の道徳力を向上させる。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が90%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・道徳の授業の充実などをさらにはかり、生徒の実践力を向上させるよう工夫する。
	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	毎月の生活目標を示して目標ある生活をさせるとともに、全教職員の共通理解を図り、生徒指導に当たる。 生徒主体の活動において、生活目標や生活上の課題などを自分事としてとらえられるような取組を設定し、支援を工夫する。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が90%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・教職員が率先垂範の姿勢で行動し、生徒の意識を啓発することで、より一層規範意識を高めていく。 ・生徒会学年委員会・生活委員会等で毎月の生活目標を立て、自律的な生活ができるよう支援していく。

A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	あいさつ運動の推進などで時と場に応じた言葉遣いやあいさつができるようにする。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が数値指標の 80%を大きく上回った、十分に目標を達成できたと思われる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動日だけでなく、いつでも、どこでも、誰に対してもすすんで気持ちのこもったあいさつができるよう指導を継続していく。また、教職員が率先垂範して、日々生徒に接していく。 ・生活委員会を中心に、あいさつ運動の活性化や習慣化を図る。
A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 85%以上	自分の良さや個性を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画させることで、その達成に向けてあきらめず努力する力を高める。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が 85%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・学校行事などを通して、粘り強く目標に向かって取り組めるよう支援する。 ・日々の生活において、達成可能な目標をこまめに設定することによって、達成感や自己肯定感を持たせるよう工夫する。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 90%以上	保健体育の授業において、段階的な指導の工夫とわかりやすい指導を工夫することで、生徒の興味・関心を高める。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が 90%を超えており、十分に目標は達成したと考えられる。 【次年度の方針】 保健体育・学級活動等を通して日常的にこれまでの取組を継続していく。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答 85%以上	発達段階に応じたキャリア教育を行うことで、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が 85%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動などを通して粘り強く目標に向かって取り組めるよう支援する。 ・日々の生活において、「夢」「未来」について考えさせたり議論する機会を作ったりするよう工夫する。
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	外国語の授業や総合的な学習の時間などでの言語活動の充実を図る指導によってコミュニケーション能力を高める。	B 【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が 85%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・英語の会話力向上策について、学校園内で共通の目標を設定して指導に当たっていく。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	総合的な学習の時間（宇都宮学）や地域ボランティアに参加することによって宇都宮の良さを多く体験・実感できるように工夫する。	B 【達成状況】 ・教師、生徒の肯定的な回答は目標を大きく上回ったが、保護者の肯定的な回答はわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・学校だよりや HP を用いて、宇都宮の良さを保護者や地域に啓発していく。
A 10 生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	読書活動や各教科での ICT 機器の積極的な推進で、ICT 機器や図書等を学習に活用する力を高める。GIGA スクール構想が具現化できるよう、積極的にパソコンを活用する。	B 【達成状況】 ・教師、生徒の肯定的な回答は目標を大きく上回ったが、保護者の肯定的な回答はわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・学校だよりや HP を用いて、ICT を使った授業や活動の様子をさらに発信していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 85%以上	地域学校園全体で効果的な道德教育を行い、それを地域学校園で実践することで、地域の高齢者に対する感謝やいたわりの気持ちを高める。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が90%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・さらに道德の授業や生徒会活動等の充実をはかり、生徒の実践力を向上させることができるよう工夫する。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	ボランティア活動や、NIE 活動などを通して現在直面している諸問題に関して前向きに考えていく力を育てる。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が数値指標の80%を上回った、十分に目標を達成できたと思われる。 【次年度の方針】 ・さらに SDGs・ESD についての理解を深めるとともに、関連した活動を様々な場面に取り入れていく。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 90%以上	教育相談部会において情報交換をしつかり行うと共に、報・連・相を確実にしながら素早く対応する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が100%となり、目標を十分に達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・職員研修で教職員の資質能力を高めるとともに、機会を捉え生徒の情報を迅速に伝達し共有することで、より適切な対応を検討していく。(各機関や小中の連携を含む)
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 90%以上	いじめ撲滅集会や道德での計画的な学習によって、いじめが許されない行為であることを実感する機会をより多くつくる。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が90%を超え、目標を概ね達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・生徒指導日より、HP 等でいじめの未然防止のための取組等について家庭に啓発していく。また、問題への早期発見、早期対応のために、見守り態勢をさらに強化していく。 ・スタンダードダイアリーや生徒との対話の中で、日々の様子を把握し、保護者との連携を密にする。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 85%以上	教育相談や家庭訪問等を有効に活用しながら、家庭との連携を密にとり、問題があれば早期対応、早期解決をめざす。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・児童生徒すべてにおいて肯定的な回答の割合が90%を超えており概ね目標は達成していると思われる。 【次年度の方針】 ・保護者との連携や関わりを密にしていく。 ・教育相談や Q・U 検査、明るい学校生活アンケートを継続していくことで生徒理解に努める。 ・校内のアドバンスルームや適応支援教室、外部機関の活用により、不登校の改善に取り組む。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 90%以上	国際交流協会指導員や日本語指導員との連携や家庭との連携を密にとることで、適切な対応支援する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答は数値指標の100%となり、目標を十分に達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・年度始めの職員研修(生徒理解)において、教員間での情報の共有をしっかりと行う。 ・今年度同様、日本語指導員との連携を密に行う。

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 90%以上	教師自らあいさつや声掛けをし、よりよい人間関係を醸成するとともに、学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある学校づくりに努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答がわずかに目標を下回ったが、全体として目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に進める生徒会活動をさらに推進していく。 ・QU 検査等を活用しながら居心地の良い集団づくり・学級経営を工夫するとともに、教育相談等を通じて個に応じた指導・支援の充実に努めていく。
A 18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 85%以上	前時の復習としての小テストを実施するなど、基礎・基本の定着を図る。 教員全員が年1回以上授業を公開し、互いに参観することによってOJT型研修を充実させ、指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 ・教職員・生徒においては95%以上となり、十分目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・さらに分かる授業・きめ細かな指導を行っていくため、授業改善と評価の工夫に取り組んでいく。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 90%以上	教育目標及び学校経営の方針を全職員が意識し、全教育活動でそれが生かせるように活動しながら業務を進めるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が100%となり、十分目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・プロジェクトチームを活用して、教職員間の協力・相談体制を構築していく。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	従来の業務内容をもう一度見直し、教員の業務内容の精選を行う。 部活動地域指導者を有効活用した部活動の充実を図る中で、教員の業務縮減を行う。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が80%を超えており目標を達成したが、前年度より低下した。 【次年度の方針】 ・さらなる業務の平準化と効率化、部活動のありかた等に関して改善を図っていく。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 85%以上	地域学校園各部会取組の充実を図る。 (・学習部会・生活部会・健康、体育部会・地域学校園事務室部会)	A	【達成状況】 ・昨年度より保護者、生徒の肯定的な回答が増加した。しかし生徒の肯定的な回答が67.2%となり、目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・生徒が実感できる取り組みを工夫するとともに取り組み内容や成果について生徒に情報提供していく。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	地域コーディネーターと連携し、地域協議会活動の有効活用や学校支援の取り組みを推進する。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が85%以上であり、目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続し、地域協働活動推進員と連携して地域の人材を生かした学習支援等を充実させていく。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%以上	家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を図る。 地域コーディネーターと連携し、地域協議会活動の有効活用や学校支援の取り組みを推進する。また、PTAとの連携を深め、学校運営の充実を図る。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が85%以上であり、目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・これからもPTA活動や保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を図っていく。 ・引き続き地域未来会議、ボランティア活動等を通して、地域との連携を深める。

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	避難訓練や防災訓練を行うことで安全に関する知識を高め、安全点検を毎月確実に行い、修繕箇所を早めに修繕する。	B	【達成状況】 ・教職員・地域住民は100%、保護者の肯定的な回答は96.6%と目標は十分に達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・これまでの内容を精選しながら継続していく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答80%以上	図書の希望調査やICT機器の整備を積極的に行い、効率的に利用できるようにする。	B	【達成状況】 ・おおむね目標は達成したが、保護者の肯定的な回答が74.7%であり、数値指標を下回った。 【次年度の方針】 ・GIGAスクール構想やICTを利用した活動の様子を保護者に情報提供していく。
	B1 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 肯定的回答80%以上	各小学校や地区主催のボランティア活動などに、積極的に参加する。 JRC委員会を中心に、地区体育祭等の係として積極的に参加する。	A	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が数値指標の80%を上回った。十分に目標を達成できたと思われる。 【次年度の方針】 ・新しい生活様式の下でも出来る活動を模索していく。 ・これまで同様、校内にボランティア活動の掲示物を掲示し、生徒の意識を高めていく。
	B2 教職員は、あいさつや対応が丁寧で誠実である。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	誰に対しても気持ちのよいあいさつを教職員自ら率先して行い、誠実に接するよう努める。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が95%以上となり、目標が十分達成できていると思われる。 【次年度の方針】 ・これからも教職員一人一人が意識して業務にあたるようにしていく。
	B3 学校は、「強い体、折れない心、健康的な生活習慣」の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答90%以上	朝のランニング等、生徒の体力向上を目指した活動の工夫をしていく。 保健だよりや健康チェックシートで生徒に健康的な生活習慣を意識づける。	A	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が90%以上になっており、目標が達成できていると思われる。 【次年度の方針】 ・今後も体力やレジリエンス（回復力）の向上につながる活動を工夫していく。 ・教職員全体で日頃から生徒の心の状態を把握し、支援していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- （1）今年度のアンケート結果は、生徒の肯定的回答が全項目で昨年度から上昇した。生徒が学校生活の向上を実感していることがうかがえる。また、全ての回答者で市の平均を上回り、概ね本校の取組は妥当であったと考えられる。
- （2）保護者で目標に達していない項目のNo.8とNo.9については、肯定的割合が昨年度より上昇しているものの、更に情報提供や啓発に取り組む必要がある。
- （3）○No.18は、教職員の肯定的回答は96.9%以上で、保護者、地域住民も目標を達成している。生徒の回答は昨年度より大幅に上昇したものの、目標には達しなかった。小中一貫の取組状況と成果について、生徒が実感できるよう情報提供していく必要がある。
- （4）No.17は、目標を達成しているものの昨年度より5P以上低下した。様々な教育活動の再開により業務量が増加したためと考えられるが、今後組織体制の改善と業務の平準化に一層取り組む必要がある。
- （5）地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであり、すべての項目で肯定的回答が100%となった。

7 学校関係者評価

- ・どの項目も生徒の肯定的な回答が市の平均より高くなったことはよかった。
- ・コロナ対策の難しい時期の中、実績を上げてすばらしいと思いました。
- ・コロナ禍で行事の変更や中止が続いてきたが、少しずつ本来の形に近づいてきたように感じます。
- ・小中、地域などのつながりが生徒達も認識できているように感じます。
- ・図書を学習に活用している生徒が8割以上いることはすごいと思います。
- ・「小中一貫・地域学校園」の取組での生徒の肯定的な回答が低いので、もっと小中の児童生徒と一緒に取り組めるような活動があるとよいと思います。
- ・不登校の生徒を生まないように取り組んでいることがわかりましたが、不登校になる子どもが増えていると聞くので、増えないように今後もケアなどに力を入れてほしいと思います。
- ・不登校の生徒達のための取組を具体的に教えてもらい、納得しました。ICTなどを利用し、学校に来なくても授業を受けられたりつながりができたりするよう、今後もお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 今年度のアンケート結果は、生徒の肯定的回答が全項目で昨年度から上昇した。生徒が学校生活の向上を実感していることがうかがえる。また、全ての回答者で市の平均を上回り、概ね本校の取組は妥当であったと考えられる。今後も生徒、保護者、地域に信頼されている学校になるよう努力していきたい。
- (2) 保護者で目標に達していない項目のA9とA10については、肯定的割合が昨年度より上昇しているものの、更に情報提供や啓発に取り組む必要がある。
- (3) ○地域学校園の各小学校と連携を図りながら、小中一貫教育を進めており、今年度はあいさつ運動や教職員の情報交換などを徐々に再開してきたが、生徒の肯定的回答が目標に達しなかった。小中一貫の取組状況と成果について、生徒が実感できるよう情報提供していく必要がある。
- (4) A20は、目標を達成しているものの昨年度より5P以上低下した。様々な教育活動の再開により業務量が増加したためと考えられるが、今後も組織体制の改善と業務の平準化に取り組んでいきたい。
- (5) 地域の方からの評価はたいへん肯定的であり、全ての項目で肯定的回答が100%となった。これからも地域の方々から信頼され応援していただける学校づくりを推進したい。